

「大学体育スポーツ学研究（第20巻）」優秀論文賞 選考経過および講評

I. 選考経過

1. 選考対象となる論文

2023年3月発刊の「大学体育スポーツ学研究（第20巻）」に掲載された10編のうち、過去の本賞筆頭受賞者（西脇雅人氏）による筆頭論文1編、および本賞審査辞退者（難波秀行氏）による筆頭論文1編の計2編を除く8編（原著3編，研究ノート5編）の論文を選考対象とした。

2. 選考委員（敬称略）

第1次選考委員：西田順一，難波秀行，園部豊，木内敦詞，梶田和宏，小林雄志，佐藤和，高田大輔，田原亮二，中田征克，西垣景太，平工志穂，藤野和樹，山本浩二（以上，本誌編集委員）

第2次選考委員：木内敦詞（委員長），西田順一（幹事），荒井弘和，磯貝浩久，寺岡英晋，宮口和義

3. 選考結果

第1次選考では，本誌編集委員全員より優秀論文賞に相応しい2編の推薦がなされた。選考委員は自身が共著者の論文以外の上位2編を推薦することとした。その結果，推薦数の多かった上位2編を第2次選考の対象とした。第2次選考では選考委員が2編に対して量的・質的評定を行った。その結果に基づき，最終的に以下2編を受賞論文として本連合常務理事会へ上申し，承認された。

第20巻においては，2編の論文を優秀論文賞に選出した。過去に「該当論文なし」の年度はあったが，2編選出は初めてのことである。本誌に優れた掲載論文が集積している証左といえる。

受賞論文名（掲載順）

大学体育授業が受講生のメンタルヘルスに与える急性及び慢性効果：

エアロビックダンスと器械運動の比較

著者：諏訪部和也，生田目颯，田中光，林田はるみ，伊藤理香，大槻毅

掲載：大学体育スポーツ学研究，20：1-11，2023年3月

大学体育におけるこころの準備運動としての「笑い準備運動」の教育効果

著者：藤田恵理，平工志穂，田中幸夫

掲載：大学体育スポーツ学研究，20：33-47，2023年3月

II. 講評

<諏訪部論文>

諏訪部論文は、エアロビックダンスと器械運動の体育実技が大学生のメンタルヘルスに与える急性および慢性的な効果を検討したものである。体育授業は大学生のメンタルヘルスに好影響をもたらすことが期待されているものの、運動種目による効果の差については十分に検討されていないこと、とりわけ音楽と他者とのコミュニケーションの持つ意義を、厳密な研究プロトコルのもと、急性および慢性の視点から包括的に検証した点を評価できる。また、先行研究の課題を的確に指摘したうえで具体的な実践を見据えているので、方法の記述が具体的かつ詳細であり、考察もさまざまな角度から述べられている。そのため、後進の研究者が教育実践研究の論文化に挑むときの模範となる論文といえる。

1) 気分をネガティブな側面だけでなくポジティブな側面に着目することでより一層効果を検出できた可能性や、2) サンプルサイズの増加と長期的なフォローアップが望まれること、3) より詳細な環境要因に関する検討、が課題として残されるものの、優秀論文賞に相応しい論文と判断した。

<藤田論文>

藤田論文は、近年の大学生のコミュニケーション能力の未熟さを背景に、大学体育授業における「笑い準備運動」が教育効果に与える影響を検証したものである。本研究の結果は、こころの準備運動としての「笑い準備運動」が大学生の体育授業後の気分や感情に肯定的な影響を与え、コミュニケーションスキル向上へ寄与する可能性を示唆している。体育授業をより円滑に、そして活発に進めるための実践的な工夫としての「笑い準備運動」導入のアイデアは圧倒的なオリジナリティを有しており、著者らの挑戦的な姿勢は高く評価できる。また、笑うことの重要性を学術的および実践的な両側面から考察を加えていることも優れた点といえる。

その一方で、さらなる研究課題の残ることが審査員からも指摘されている。1) 学修者のコミュニケーションスキルの質や量を評価できていないこと、2) 気分の指標がネガティブな側面に偏り、ポジティブな側面を評価できていないこと、3) 準備運動にとどまらず、その後の授業の中で笑いを誘発する仕組みへの展開がなされていたかどうかの記述が不足していること、などである。

これらの課題は残るものの、コミュニケーション能力向上をはじめとした体育での学びを球技以外の種目でもより効果的に行う新たなアプローチを提案するユニークで応用可能性の高い試みは、大学体育の発展に寄与する価値ある研究として位置づけられる。よって、優秀論文賞に相応しい論文と判断した。

以 上